

第2回パパママ参加型

「じいじ&ばあばのための孫育て講座」を開催しました

7月28日（土）に、ボートレース鳴門ROKUにて第2回の孫育て講座を開催しました。

今回は、「子育て今昔物語～こんなに違うの?! 子育ての新常識～」と題して、子育てに関する世代間ギャップを埋めるべく、どんどん変化・進歩する育児の常識を学ぶ講座となりました。

講師は鳴門ファミリーサポートセンター所長の坂東玲子さん。

坂東さんはこれまで長年にわたり保育園にて勤務され、お子さんはもとより育児に悩む保護者の方々に寄り添ってこられました。平成29年4月からは鳴門ファミリーサポートセンターに勤務され、今年度より所長としてご活躍されております。



総勢45人（祖父母世代16人、親世代13人、子16人）にご参加いただきました。

前回に続きリピーターの参加者も数名いらっしゃいました。

子どもたちにはキッズスペースをご用意。

今回は、地域のボランティアの方々にお越しいただき、昔ながらの遊び（お手玉、折り紙、あやとり）を教えてもらっていました。

子どもたちがリラックスして過ごせることで、参加者の皆さんも和気藹々とした雰囲気の中、講座がスタート！





出典：四国少子化対策会議発行「祖父母の育児参加啓発リーフレット 孫となかよし」

四国少子化対策会議が発行している「祖父母の育児参加啓発リーフレット 孫となかよし」を手に取りながら、これまでのご経験を元に、育児に関する考え方の昔と今の違いについてお話しいただきました。

～講座内容から抜粋～

【うつぶせ寝】

(昔) 頭の形が良くなるからうつぶせ寝の方が推奨されていた

(今) 医学上の理由がない限りあおむけで寝かせる

うつぶせ寝による窒息で乳幼児突然死症候群(SIDS)にならないように、保育園では0歳児のお昼寝時には職員が5分ごとにチェックを行っています。

【離乳食】

(昔) 生後5ヶ月頃から離乳食を開始していたし、その前に果汁を与えていた

(今) 5~6ヶ月ごろから離乳食を開始できればいい、果汁も必要はない

脳や言葉の発達のためにも噛む練習は大切です。また、それぞれの素材の味がわかるように食材はできるだけ分けて食べさせることで、いろいろな味を経験させましょう。

食物アレルギーには注意が必要です。重篤な症状を招くことのないよう医者の指示に従いましょう。

【箸などの共有】

(昔) 大人が使っている箸で子どもに食べさせてあげていた

(今) 大人との箸やスプーンの共有はしない

大人との箸やスプーンなどの共有により、虫歯菌が感染すると言われています。

親世代にとって、このことは何より気がかり！かみ砕いて与える？！絶対にやめましょう！！

【抱っこ】

(昔) 抱き癖がつくと言われ、あまり抱っこはしなかった

(今) 抱っこは大事なスキンシップなので、たくさんするべき

抱っこは親子の愛着関係の形成に非常に役立ちます。親子で同じ景色を見て楽しむおんぶ、お互いの表情を見られる抱っこ。どちらの方法にも持ち味があります。

最近は肩や腰への負担が少ない抱っこひもが人気です。しかし、災害時には目の前が見通しやすいことからおんぶの方が良いという意見もありますし、さらしなど持ち運びしやすいもので代用できるのも魅力です。

【水分】

(昔) 水分補給としてお風呂上がりに湯ざましを与えていた

(今) 水分は母乳やミルクだけで十分

離乳食の項目でもありましたが、昔は果汁を与えることもありましたが、しかし、乳児の場合は母乳やミルクで水分やビタミンなどの栄養素は十分摂取可能とされています。また、幼児の水分補給として、カフェインが入っていないことから麦茶の人気の高まっています。

【外出】

(昔) 日光浴として全身を日に当てることもあった

(今) 外気浴として直射日光を避け、外の空気をを感じる

強すぎる紫外線は、免疫力の低下を招き身体に悪影響を及ぼす恐れがあります。

特に外遊びの際は首の裏が焼けやすいことから、首の日よけができる帽子の着用が理想です。

また、熱中症も要注意です。外気温はもちろんのこと、大人よりも身長の高い子どもは地面からの照り返しによる影響にも注意しましょう。

プール熱中症をご存じですか？

涼しくなると思われがちなプールですが、水温が30℃を越えると水温と体温との差が小さいことから熱中症にかかりやすくなるとも言われています。

鳴門市でも、この夏の熱中症事故防止対策として、環境省が公表する熱中症予防運動指数（WBGT）が31を越えた場合は部活動やプールなど屋外での活動は中止とすることとしています。

【車での移動】

(昔) 赤ちゃんの頃はかごに入れて、大きくなったら抱っこで車に乗せていた
(今) 道路交通法の改正で6歳未満児へはチャイルドシートの使用が義務づけられた

車に乗せる機会が少なくても、6歳未満児にはチャイルドシートは必須です。お出かけや送り迎えに備えてしっかり準備しましょう。(バスとタクシーの乗車時免除されています)

このほか、次のようなお話をいただきました。

最近では、地域や家族形態など子育ての環境が変わってきています。核家族化がすすみ、ご近所とのつきあひも希薄になりつつあり、子育てに関する悩みも相談できる相手がいなくなったりします。また、児童クラブに行っていないお子さんを預かる祖父母世代から、近所に一緒に遊ばせられる子がおらず、遊び場に困っているとの声も聞こえています。

祖父母世代にも変化があり、共働きであったり、定年後は趣味を楽しみたいとの思いが強い方も増えてきています。子育てを「任される」ことのしんどさもあり、できる範囲で、親世代と話し合いながら子育てに関わることが大事です。

例えば、おもちゃを孫に買い与える場合でも、一方的に与えるのではなく、親世代とのコミュニケーションをとることがトラブルを防ぐことにつながります。

孫も年齢を重ねると遊び方も活発になり、宿題があったりして祖父母では対応しきれないことも増えてきますが、そんなときこそ親世代と話し合い、協力しあうことが必要です。

また、親世代も祖父母世代に子を見てもらえることが「あたりまえではない」ことに気づくことが大切です。

今回の講座では、親世代、祖父母世代両方の具体的なエピソードを交えながら、それぞれの世代とふれあうことの多いファミリーサポートセンターならではのお話を伺うことができました。

それぞれに気遣う心を持ちながら協力し合って育児をすることの大切さを再確認することにつながりました。

【参加者の声をご紹介します】

- ・今も昔も変わらないこともあるが、子育てにおいては時代で変わることが知れてよかった。
- ・立場の違いによる想いの違いが知れて良かった。祖父母世代への感謝の気持ちが芽生えた。
- ・講師の経験に基づく話だったので、大変聞きやすかった。
- ・祖父母の意見を参考にしても、親世代とは意見が違うこともあり、自分の育て方が分からなくなることがある。
- ・キッズコーナーで子どもも楽しめた。地域の方とのふれあひを大切にしたい。
- ・祖父母の協力無しでは働けないと感じている。女性の社会進出が進められているが、働ける環境作りができていないと感じている。
- ・次回は災害時の対応などを実演をふまえて学習したい。

【鳴門市ファミリーサポートセンター紹介】

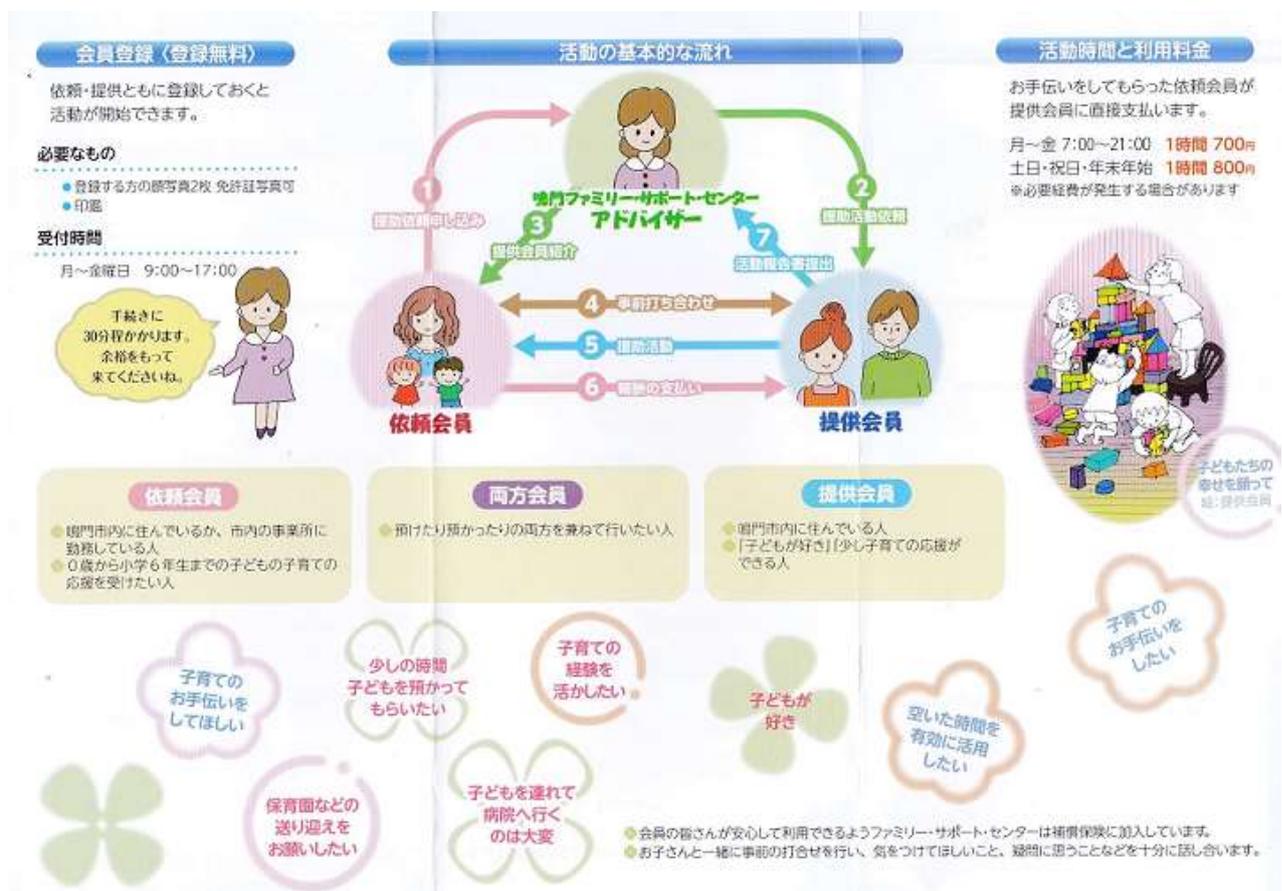
鳴門市には身近に祖父母がいない方も多くいます。働くお母さんも多い中、育児支援が必要な方のためにあるのが鳴門ファミリーサポートセンターです。

ここでも提供会員として、祖父母世代のチカラが活かされています。

また、ず〜っと長時間にわたって孫を世話するのは負担が大きいと感じる方でも、無理のない範囲で、少しの時間、少しの労力で協力できることにやりがいを感じる方が多いようです。

★会員の皆さんが安心して利用できるよう、補償保険に加入しています。

★お子さんと一緒に事前の打ち合わせを行い、気をつけて欲しいこと、疑問に思うことなどを十分に話し合います。



【問合せ先】鳴門ファミリーサポートセンター

〒772-0003

鳴門市撫養町南浜字東浜24番地2

鳴門市健康福祉交流センター（鳴門ふれあい健康館）1F

電話 088-683-0788 FAX 088-683-0798

Eメール nfsc88@ca.pikara.ne.jp